

## <2020年4月～2021年3月までの活動報告>

会員数 一般会員 109 名 フラッシュ会員 18 名

昨年度は2つの助成金とコロナ禍での活動と初めての経験が2つ重なり、また職員を配置するなどチャレンジの年でした。コロナの影響で家事サポートをやむなく一時停止させました。感染対策をマニュアル化して利用者もサポーターも安心して活動できる形を整えたうえで再稼働しました。大きく、「助け合い（家事サポート）」、「居場所作り」、「学び合い」の3つの柱で活動してきましたが、助成金を受けた事業「助け合い」、「学び合い」に大きく力を注ぐことになりました。コロナの影響で居場所作りも一時停止しましたが、感染対策を取り、集いの時間も会員の力を借りて継続してきました。2020年度いっぱい終了となったジョンソン・エンド・ジョンソンの助成金では、認定 NPO 法人ムラのミライのリードにより、多くの力をつけさせていただきました。WAM の助成金ではひとり親支援を行いました。まだ出会ったことのない家庭や社会課題と向き合い、学びの時間を多く取りました。全体を通して団体としての体力をつけていかないといけないということを痛感した一年でした。

### 1) 地域サポート事業

#### ①家事サポート事業

のべ訪問家庭数 91 件 / のべ訪問回数 350 回

コロナ感染拡大による緊急事態宣言発令を受け、4月から3か月間家事サポート事業を中止しました。その間、当時サポートに関わっていたSP（スペシャルパートナーの略。家事サポートに行くスタッフの名称。）6人がオンライン上で話し合いを重ね、活動に関わるスタッフの意見を聞くことから2020年度の活動が始まりました。家事サポートへ行くことへの不安、家事サポートが休止することの不安、どちらも想像ができ正解がない中、一人ひとりが意見を出し合い、耳を傾ける時間でした。同時に、家事サポート運営基盤強化のために、NPO 法人ムラのミライがアドバイザーとして参加するオンラインミーティングも定期的に行いました。（WAM 助成事業）ここではそれぞれが2時間の家事サポートの前後にどのような業務をしているのかを事実質問をとおして浮かび上がらせ、コーディネーターとのやりとりを効率化し、家事サポート時の状況判断を個々の能力や思いに委ねないためのマニュアル作成につなげていきました。その業務マニュアルと感染予防マニュアルを完成させ、7月の緊急事態宣言解除とともに家事サポートを再開しました。

7、8月は以前利用されていた方の依頼が減り、サポート件数は減少しました。9月以降、「西宮市新型コロナウイルス感染症に伴う育児支援サービス利用料金補助金」の制度が始まるとともに問い合わせが増え、妊娠期から産褥期につながるサポートや産後すぐのサポートが増えました。9月から3月の平均訪問回数は45回/月で、WAMのひとり親支援の訪問回数を加えると前年度を超えるサポート件数でした。

9、11、2月にサポーターを募集し、研修を行いました。現在15人がSPとして登録しています。

研修内容は以下のとおりです。

- ・座学 1 日目 (a little の助け合いの循環/産前産後の子育ての現状)
- ・座学 2 日目 (さまざまな子育ての現状)
- ・登録/面談
- ・SP 交換研修 (サポートを利用する)
- ・SP 交換研修 (サポートに行く)
- ・実地研修 (同行研修)

研修内容の構築とともに、多様な関わり方の提示など安心して活動できる労働条件を整えていきました。月に1回のミーティングでは、SP自身が安心と感じられる関係性を実感することと、サポートでの不安や情報を共有する時間にするとともに、ワークやミニ講習を行いました。ほぼ月に1回開催した「地域子育てサポーター養成講座(オンライン)」への参加も促し、様々な社会状況について考える時間を持ちました。家事サポートという家庭に入る活動は、思った以上に利用する人の生活に入っていくこととなります。サポートを利用する人を尊重するためには、自身の価値観で判断しないこと、そのためには自分がどんな価値観を持っているかに向き合う必要がありました。講座に参加すること、誰かの話を聞くことは、自分を振り返り、多様な価値観を知る時間になりました。

## ②西宮市未来づくりパートナー事業

もうひとつの両親学級 ～2人で子育て、みんなで子育て～

実施回数：1回

参加人数：8組(15人)

実施場所：男女共同参画センター

11月21日土曜日に男女共同参画推進課がメインになり、地域保健課、子育て総合センターとの共同事業として実施しました。2020年度は新型コロナウイルスの感染対策で、一部オンラインにて行い、当日スタッフは最小限に切り替え実施しました。アンケートの満足度は80～100点と高く、その後行政サービスを利用した方、育休を取る男性もいました。関係課との事前会議2回、振り返りを1回行いました。前年度より広報面で産院の協力が増えました。

## 2) 地域交流・つどい場事業

### ①社会の時間

年間実施回数：6回

参加延人数：参加者59人

実施場所：市民交流センター、ウェーブ、高木センター

社会の時間(おしゃべり会)は、毎回テーマを決めて開催してきました。この一年で扱ってきたテーマは、政治・自然保護・子どもの権利条約・哲学カフェ(このときのテーマは『差別』)・広島原爆・制服と校則です。どれも、ほんのちょっと、日ごろは話題にしづらい事柄です。そのようなテーマも安

心して話せる/聴ける、そんな場を作りたいと思ってきました。参加者はコロナ禍の人数制限もあって5～15人ほどでした。お子様づれの方がいらっしゃるときには、おもちゃを準備していました。

2019年までは、テーマ設定のない、地域の居場所としての「a little の部屋」を開催してきました。2020年もこれを継続する予定でしたが、コロナ禍に突入し、a little の部屋はzoom開催に移行しました。しかし、対面には「話がしやすい」、「交流が生まれやすい」というメリットがあります。安全対策を講じたうえで、対面開催を続けようという話になりました。

## ②a little の部屋

年間実施回数：10回（オンライン10回）

参加者延人数：67人

毎月第1木曜日にオンライン機能を使って開催しました。子ども中心の生活になり、自分自身に目を向けることがない中で、リトルの部屋に参加している間は自分自身のことを話す時間にしてほしいという思いで会を進行しました。話すテーマを子育てに関してだけではないように内容を考え、初めて参加した方も自然に入っていけるようにしました。10回中2回は、「春から職場復帰する方」と対象を絞り、復帰について・子どもの保育所についてなど情報交換をしました。ラインのグループも作成し、気楽に思ったことを話せる場所を提供しました。

## ③夢会議

実施回数：3回

参加のべ人数：26人

実施場所：若竹公民館、男女共同参画センター

コロナ過でつどい場が減っていく中、つながりが絶えないようにと開催しました。リトルで本気で居場所を作るために、まず夢を語ろうと会員同士が語り合う時間になりました。参加者が夢を語り、その夢に近い活動をしている場所へ視察に出かけたり、地域のつどい場作りをしているコープの会議に出席するなどの活動もしました。そこから出た声が「平和のおしゃべり会」、「子育て広場」とつながり別プロジェクトとして動きはじめています。

## 3) 学び場事業

### ①ジョンソン・エンド・ジョンソンに係る事業

協同団体：ムラのミライ

協力：ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ「JCI 助成プログラム」

事業概要：

「西宮で広げる地域で助け合う子育ての輪」をテーマに2018年度から継続している事業です。

#### (1) パートナーシップと子育てのよい関係講座

実施回数：14回

参加のべ人数：108名

実施場所：すべてZOOM開催

コロナの感染拡大を受けすべてオンライン開催にしました。産前のカップル向け講座はコロナ禍で行政や産院のマタニティセミナーの多くが休止になり、情報やつながりのないままにお産に向かうカップルが多くいる中、オンラインで1組ずつ行いました。産後カップル向け講座は兵庫医療大学の阿川先生を講師に招き男性視点の産後やエビデンスに基づいた講義をしてもらうことで、昨年度より男性のリピート参加につながりました。

### (2) 地域子育てサポーター養成連続講座

実施回数 : 全10回

参加のべ人数 : 122人

5月「a little ガイダンス/わかりあう&助け合うコミュニケーション」(a little 大和陽子)

6月「産前・産後の女性の心の変化」(臨床心理士 藤澤真莉)

7月「産前産後の行政サービスとa little の家事サポート」(a little 坂本恭子)

8月「知っておきたい子どもの病気との向き合いかた」(日本医療政策機構フェロー 阿真京子)

10月「障がいのある子どもの家族への寄り添い方」(言語聴覚士 堅田利明)

11月「母親らしさ・父親らしさを考えてみる」(NPO法人SEAN 小川真知子)

12月「料理講座」(栄養士 西古屋由美子)

1月「地域活動をするということ」(a little さかぐちゆうこ)

2月「お産後1か月の母子」(助産師 森田輝)

3月「交流会〜対話のワーク・3枚の葉っぱ〜」(a little 坂本恭子)

3年目の地域子育てサポーター養成講座はa little の活動や家事サポートへの入り口になることを意識しました。「産前産後」をテーマにした講座では、産前産後当事者の参加も多くあり、パートナーシップ講座やファミリースタート、家事サポート利用につながりました。また、「障がい」「ジェンダー」「コミュニケーション」「小児医療」など多様なテーマを切り口にa little の活動につながったり、社会課題を共有してa little との関わりを深める時間になりました。また、3年を通して、「地域子育てサポーター」とは何かについて考え続け、「助け合う」「安全」「居場所」「エンパワーメント」という4つのキーワードに結びつきました。

### (3) 男性のための料理講座

参加人数 : 8人

実施場所 : オンライン

オンラインでの講座に一般市民が慣れていない時期でしたし、料理講座を経験した人がほとんどいない時期での講座開催でした。a little としても、どんなことが起こるのか予測がつかない中での開催でしたが、講師の木下麗子さんが普段からオンライン講座を開催されていたことでその点では安心感がありました。子育て中のご家庭で食材準備と当日の2時間を確保することが難しかったのではなかったかと思います。カップルで一緒に台所に立つ姿やひとりで奮闘する姿など、日常の時間とは違う経験をしていただけたと思います。

#### (4) ファミリースタート

年間実施回数 : 訪問 2 回、オンライン 25 回

利用者実数 : 9 人

参加のべ人数 : 27 人

3月にコロナ感染防止のため全国に緊急事態宣言が発令され、4月より訪問することを見合わせ、オンライン機能（Zoom）を使ってお話を伺うことに切り替えました。コロナ感染予防がある中、思うように外出できない状況で、家庭で子どもと向き合う時間がより長くなりました。オンライン機能は、家に居ながら人と繋がることができます。また、産後半年くらいは、子どもとの生活リズムがつかみにくく、外出もままならない時期です。日中誰かと会話する時間が少なく、不安を打ち明けることができないので、そのような時に、誰かと少しでも会話し、自分のありのままの思いを話すことで気持ちが軽くなったとファミリースタートを終えた方からお声をもらっています。

#### (5) 報告会

実施日 : 3月17日

参加人数 : 20人

実施場所 : オンライン

3年間の事業の総括として、オンラインで報告会を行いました。a little の活動に関心のある方、NPO 法人ムラのミライの活動に関心のある方や助成元であるジョンソン・エンド・ジョンソンのスタッフの方々などにご参加いただきました。NPO 法人ムラのミライと協働したことで、計画に基づき、事実を確認する調査やヒヤリングを行い、実態に即した活動を進める方法を学ぶことができました。この力が a little の活動の基盤となり大きく成長できたと実感できる報告会になりました。

#### ②その他事業

##### (1) マタニティヨガ

実施回数 : 9回

参加のべ人数 : 21名

実施場所 : 市民交流センター、zoom (1回)



女性が自身の体と向き合う時間を大切にしてほしいというベースの上に、妊娠出産という大転換期をどう過ごすのかをボディワークを通して伴走していくための時間です。パートナーとの参加もありました。マタニティヨガを窓口に講座や家事サポートにつながり、単発だけではなく継続的な支援につなげることも目的に実施しました。

(2) いきいきフェスタ 「おとうさんのためのオンライン交流会」

実施回数 : 1回  
参加人数 : 5名  
実施場所 : オンライン

男女共同参画センターの年に一度のフェスタに参加しました。子育て中の男性が相談できる相手がいない、それ以前に気軽に話のできる友人がいないということがパートナーシップ講座の中で分かってきました。パートナーシップ講座でお世話になった阿川先生の紹介で、保育士の橋本先生を講師に招き、企画開催しました。PN 講座に参加してくれた男性が多く参加してくれ、その後ライングループが出来て交流が続いています。

#### 4) 社会福祉振興助成事業 (WAM 助成)

半径 1.5 キロで脱ワンオペ育児 ひとり親家庭への子育て支援事業

##### 事業概要：

地域で孤立しがちなひとり親家庭を対象に家事支援を行いました。制度の狭間で支援が受けにくい状況にある離婚前の別居家庭も対象にしました。各家庭の課題や個別のニーズに沿った家事・育児支援を構築するために、支援開始、中間、終了時に聞き取りを行いました。支援期間中から公的・民間団体を紹介し協力しながら支援を行い、支援終了後にも継続的に地域でつながれるように働きかけました。また、ひとり親地域共生連携の基礎を作るために、日常的な情報交換や支援の必要な家族を紹介しあえる関係性を作るよう努めました。

- 1 ひとり親家庭の家事サポート無料モニター募集と実施  
1 家族あたり週 1 回のサポート 3 か月程度及び面談 (10 家族) 延べ 176 回  
交流会 (12 月 27 日 9 人・3 月 17 日 5 人)
- 2 家事サポート運営基盤の確立  
A:スタッフへの運営指導と研修 年間延べ 26 回  
B:ひとり親家庭支援に関するサポーター研修:年 4 回
- 3 地域共生連携会議および視察  
A:地域連携会議 (10 月 28 日 10 人・1 月 18 日 16 人)  
B:視察 (3 月 25 日・認定 NPO 法人こまちぷらす様・26 日 NPO 法人リトルワンズ様)
- 4 ひとり親家庭の家事サポート利用促進のための広報  
チラシ・ホームページ作成。ブログでの発信。モニター向けメール配信
- 5 事業成果報告会 (3 月 22 日 西宮市市民交流センター)  
連携団体・行政職員・メディア・市議会議員、受益者、サポーター 17 人  
(内 1 名メディア関係者)



## 5) 広報

### ①メールマガジン（400名超）

隔月発行。近日開催予定の講座、おしゃべり会などのご案内をしました。

### ②会員メールマガジン（発行回数6回）

隔月発行。「今月のリトルな人」というタイトルで会員さんの紹介をしました。その他おしゃべり会や会議、視察の報告など、一般向けメールマガジンよりも充実した内容を配信しました。

### ③フェイスブック・ブログ

イベント開催後の報告が次の集客につながることを学び、報告を丁寧にするのを心掛けました。また、「家事サポート report」を定期的に掲載しました。特に産前産後のサポートの様子をお伝えし、利用のハードル、家事サポートの仲間になってもらうハードルを減らすことを期待しています。

### ④ニュースレター（5月/12月発行）

会員、講座参加者、SP など、文章を書いていただく人が増えてきました。SNS を普段利用しない人にもじっくり活動を知ってもらえるよう、会員に配布するほか、他団体の方、イベント参加者にお渡ししています。

## 6) 理事会について

実施回数 : 3回

参加のべ人数 : 15名

実施場所 : ZOOM1回、プロジェクト事務所2回

7月17日、9月23日、12月16日に行いました。大きく3点について承認を得ました。①WAM助成を受けるにあたり、人事を改め3人が定額スタッフとして新体制を作った（職員という形で2名（大和・坂本）、役員報酬と講師謝金という形で坂口）。②会議の形を実際の活動に即したものにするため、部門別チームリーダーが運営会議で進捗説明し、情報共有を出来るように変更した③実際運営しているメンバーがほとんど理事であることから、俯瞰的に意見を出してくれる人がもっと必要だということで時期理事会は人数を増やすことにした。その他、継続事業の進捗状況や新規に始まったWAM事業、夢会議、ボランティアdayについても随時報告しました。

## 7) 西宮市子ども生活アンケート実施

緊急事態宣言下の5月に子ども達の生活環境、教育への不安が聞こえてきました。育児環境の変化を知るために、緊急アンケートを実施しました。a little のホームページ、Facebook、Twitter、西宮市子育て支援団体などのSNS・メールなどを通じ周知を依頼、所定のwebフォームへの入力し提出していただきました。合計512回答が得られました。記述式が多かったにも関わらず、多くの声が届きました。集計した内容をまとめ西宮市市長及び教育委員会、西宮市市議会議員に届けました。また、どなたでも閲覧できるようにホームページでも公開しました。

## 8) 市長及び行政職員・市議会議員等との面談

定期的に面談の機会をもらい、現場の声を届けてきました。6月、10月と2回。主に産前産後の家庭の現状を伝えました。市長面談をきっかけに議員から勉強会のリクエストがあり、全会派に向けて1回、関係課の課長向けに1回、現状を伝える機会をもらいました。

